

# 令和4年度を迎えて ～2年間を振り返り 将来を展望する～

埼玉県教育委員会 教育長 たかだ 高田 なおよし 直芳



令和2年4月に教育長の職を拝命してから、はや2年が経過しました。埼玉教育の更なる充実のため全力で取り組んでいかねばならないと、新年度を迎えて思いを新たにいたしました。

この誌面をお借りして、過去2年間を振り返りつつ、学校教育の将来について考えてみたいと思います。

## 1 コロナ禍が開いた学校教育の新時代

この2年間は、新型コロナウイルス感染症への対応に多くの時間と労力を費やしてきました。未知のウイルスへの対応とあって、難しい判断の連続でした。

通常の学校運営が難しい状況下でも学びを継続させるため、ICTを活用した教育が大きく前進しました。国のGIGAスクール構想も前倒しとなり、子供たち1人1台の端末整備や学校の通信環境の強靱化が加速度的に進み、学校教育は一気に新しい時代に突入しました。

これからの課題は、学習目標や到達目標に見合ったICT活用する方法について研究を深め、すべての教員が日常的かつ安定的に、ICTを有効に活用できるようにすることだと考えています。県の予算により、今年度から、県立学校の先生方が使用する学習指導用の端末整備がスタートします。大いに有効活用して新時代の教育を豊かなものにしてもらいたいと思います。

## 2 就任当初に掲げた2つの課題

解決を急ぐべき課題として就任時に挙げたのが、不祥事根絶と学校における働き方改革でした。

不祥事根絶に向けては、令和3年2月に不祥事防止研修プログラムを整理し、短時間でできる研修をこまめに積み重ねる取組を推進してまいりました。

学校における働き方改革については、今年度、向こう3年を見据えた新たな基本方針を策定しました。実効性の高い具体策が講じられるよう期待しています。

これら2つの課題の解決は、埼玉教育の将来を担う人材を確保する観点からも重要です。昨今、教員採用選考試験の倍率が低調な状況です。不祥事を根絶し、働き方を改善することにより教職に対する負のイメージを払拭し、未来を創る子供たちを育てる仕事の持つ魅力を発信し、より多くの人に埼玉県の教員を目指してもらえるようにしていきたいと思っています。

## 3 誰一人取り残さない社会の実現に向けて

多様性を尊重し、誰一人取り残さない社会を目指すという気運が、この2年間で大きな高まりを見せたという印象を持っています。学校現場においても、LGBTQやヤングケアラーについて正しい理解に向けた指導が必要です。加えて、具体的な支援の在り方についても模索していかなければなりません。

また、増加傾向が見られる不登校児童生徒に対しても、学習の支援等を適切に実施することが求められています。このため、不登校児童生徒の支援に向けたモデル的教室を県立戸田翔陽高校内に設置し、戸田市教育委員会とも連携を図りながら、カリキュラム研究等を通して不登校児童生徒を支援する取組に、今年度新たに着手したところです。

ここに挙げた以外にも、社会では新しいテーマが次々と生じています。将来に向けて、これまで以上に時代の流れを読む感覚を研ぎ澄ませ、機動性をもって対処する体制を整えなければならないと考えています。

## 結びに

社会は留まることなく変化を続けています。また、長らく私達を悩ませ続ける新型コロナウイルスも、変異を繰り返す性質があるようです。めまぐるしく変わる社会の中で、変異を続けるウイルスとも共存しながら生き抜いていく上で肝要なことは何かと考えた時、「私達自身が変わること」ではないかと思ひ至ります。前例にとらわれない、発想を転換する、新しいことに果敢にチャレンジする、こうした姿勢を前提に、学校教育の新しい在り方、新しい価値を創造していくことが、今まさに求められるところです。

学校は、どちらかというといわゆる確立された価値観を大切に、それを守ろうとする傾向が強い組織です。しかし、この2年間で私たちは新たな可能性を模索しながら試行錯誤を繰り返してきました。未知の領域に飛び込むのは勇気のいることですが、その先には今まで見ることができなかった景色が開けるはずですよ。そう信じて、皆さんとともに、思い切って、次なる一歩を踏み出す、そんな1年にしたいと思っています。